25日　火曜

創世記

39:11 このようなある日のこと、彼が仕事をしようとして家に入ると、家の中には、家の者が一人もいなかった。
39:12 彼女はヨセフの上着をつかんで、「一緒に寝ましょう」と言った。しかしヨセフはその上着を彼女の手に残し、彼女から逃れて外へ出た。
39:13 彼が上着を彼女の手に残して外へ逃げたのを見ると、
39:14 彼女は家の者たちを呼んで、こう言った。「見なさい。私たちに対していたずらをさせるために、主人はヘブル人を私たちのところに連れ込んだのです。あの男が私と寝ようとして入って来たので、私は大声をあげました。
39:15 私が声をあげて叫んだのを聞いて、あの男は私のそばに上着を残して、外へ逃げて行きました。」
39:16 彼女は、ヨセフの主人が家に帰って来るまで、その上着を自分のそばに置いておいた。
39:17 彼女は主人に、このように告げた。「あなたが私たちのところに連れて来た、あのヘブル人の奴隷は、私にいたずらをしようとして私のところに入って来ました。
39:18 私が声をあげて叫んだので、あの男は私のそばに上着を残して、外へ逃げました。」
39:19 彼の主人は、「あなたの奴隷がこのようなことを私にしました」と告げた妻のことばを聞いて、怒りに燃えた。
39:20 ヨセフの主人は彼を捕らえ、王の囚人が監禁されている監獄に彼を入れた。こうして彼は監獄に置かれた。
39:21 しかし、【主】はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施し、監獄の長の心にかなうようにされた。
39:22 監獄の長は、その監獄にいるすべての囚人をヨセフの手に委ねた。ヨセフは、そこで行われるすべてのことを管理するようになった。
39:23 監獄の長は、ヨセフの手に委ねたことには何も干渉しなかった。それは、【主】が彼とともにおられ、彼が何をしても、【主】がそれを成功させてくださったからである。

奴隷となったヨセフでしたが、その後は祝福されて「やはり主は見捨てなかった」という生涯になりました。しかしここにきて「やはり見捨てられた」と言ってもおかしくない状況になってしまいました。考えてみますと、私たちも恵が与えられたと思えば、次に苦しい試練が待っており、そうかと思うと「益とされた」というような展開があったりします。

地上に生きている間は様々な出来事の中で、そのたびに生きて働いておられる神様を体験するのことができます。神様から目を離さないでいたいものです。

ヨセフにとっては次々と思いがけないことが起こり、その人生が目まぐるしく変わってしまうようですが、彼の信仰の態度は一貫しています。主への忠実です。それによって主は「ヨセフとともにおられ、恵をほどこして」くださったのです。

自分を守るために、信仰の態度をころころと変えるようなことはしないで、一貫して主に従う者となり、主からの恵をいただきたいものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？